



JKSK 結結プロジェクト

(JKSK 東日本大震災復興支援 P～女性の活力を最大限活かした日本復興 P)

- 1) 2011年3月11日(金)14:46 東日本大震災発生
- 2) これは、単に東北の問題ではない。日本全国、全ての人々が、力を、叡智を出し合
って対峙しなければならない国家規模の問題であるという基本認識のもとで。
- 3) 首都圏の志の高い女性の皆さんと Meeting を開催。(2011年5月23日)
- 4) 基本認識、基本姿勢を確認。
 - * 女性が牽引力に
 - * 東北の女性リーダー達(復旧、復興に対峙している)が主人公
 - * 首都圏等の女性エキスパートは、東京目線を捨てて白紙で臨もう
 - * まず、被災地に身を置き、現状の認識と東北の女性リーダー達の話に耳を傾け、
話し合い、その場で提案された取組みの事業化を。
 - * 持続的、継続的な活動を、復興完成まで・・・。「東京目線ではなく、ご一緒
に！」「スピード感、実行力、持続性を合言葉に！」
- 5) JKSK 結結 P 発足
 - ① 被災地(東北地区)で、必死で復旧・復興に対峙している人々の間の「結」
 - ② 被災地(東北地区)と首都圏等の非被災地の人々との「結」
を維持しながら、
- 6) 被災地における定期的な車座交流会(1泊2日)の開催
 - ① 被災地の訪問
 - ② 被災地での取組みに耳を傾け、



- ③ 被災地における車座(ワークショップ)・交流会の開催
- ④ 被災地産の食事を賞味
- ⑤ 被災した旅館等に宿泊、
- ⑥ ワークショップ(車座になって討議、意見交換、提案)

第1回(2011, 7, 15~16) in 宮城県亶理郡亶理町 34人(被災地 16人)

第2回(2011, 12, 2~3) in 福島県いわき市 58人(被災地 21人)

第3回(2012, 4, 14~15) in 宮城県石巻市 53人(被災地 28人)

第4回(2012, 10, 19~20) in 宮城県南三陸町&大崎市 65人(37)

第5回(2013, 4, 12~13) in 宮城県気仙沼市&気仙沼大島 63人(37)

第6回(2013, 12, 20~21) in 福島県南相馬市 94人(56)

第7回(2014, 5, 30~31) in 宮城県仙台市 48人(32)

第8回(2015, 7, 10~12) in 福島県広野町 53人(32)

7) 東北の女性リーダー達と首都圏等の女性エキスパート達の強いネットワーク化
(目標 100人)(既に、300人以上)

自然再生、1次産業の再生、コミュニティビジネス等の個別プロジェクトに対し、首都圏等の女性エキスパート達が、伴走者として協力、多くの人々の参加を喚起しながら、資金調達、コミュニティビジネスの立ち上げ、マーケティング、政策提言等復興事業を進めるためのノウハウ、人脈などを提供していく。

8) 車座・交流会等で提案されたプロジェクトの具体的な事業化を(目標 20)

- ① 東北のグランマのクリスマスオーナメントプロジェクト
(株)アバンティ代表取締役 渡邊智恵子さん
オーナメントの制作・販売促進協力・雇用創出

漁師の妻・母親など、津波被害により生計が立てられなくなった女性たちのビジネス創出を支援。株式会社アバンティの指導の下、被災地の女性達(グラン



マ)が生産する「クリスマスオーナメント」(25,000 個)を首都圏をはじめ全国の人々に購入していただき、具体的な収入につなげていくなど、共同事業を通じて被災者の支援と女性のリーダー育成を図った。

② 被災地における中小企業支援プロジェクト

NPO 法人環境会議所東北 専務理事山岡講子さん(ACCJ)

NPO 法人環境会議所東北 専務理事の山岡講子氏が立ち上がり、仙台商工会議所および宮城県中小企業家同友会の協力を得て取り組んだ、被災地における中小企業支援プロジェクト。中小企業実態調査の取材と併せて、多数の企業の参加を募り、2012 年には、仙台市にて他企業とのマッチングの会合を設けた。

③ 宮城県亶理郡亶理町いちご農家の被災、復興状況についてのメッセージ発信プロジェクト

いちごオーナメント 亶理町ふらっとーほく 松島宏佑さん

主要産業であったいちご産業の大半が被災した亶理町、その復興を願って亶理町の皆さんが作った「いちごオーナメント」とともに、亶理町の実態についてのメッセージを全国に発信していった。

④ いわきオーガニックコットンプロジェクト

NPO 法人ザ・ピープル理事長 吉田恵美子(地球環境基金)

女性農業家のリーダー育成と被災地の農業復活を支援。いわき市の NPO と提携して、農業の復活・除染後も販売の見通しが立たない中で、人間の口に入れない作物(オーガニックコットン)への農業シフトに関するビジネスモデルの構築への挑戦。

⑤ 「3.11 小名浜地区追悼事業～世界が祈る 福島のために ふくしま・いわきで祈る 世界のために～」(2012, 3, 11)



オーストラリアアボリジニの女性 5 人を招聘

国内のタイ、チベット、アイヌの方々を招聘、地元じゃんがら念仏踊りと共に祈りをささげる

平成 24 年 3 月 11 日、東日本大震災から 1 年となるこの日、福島県いわき市において、被災者に対する追悼と、まちの復興が一日も早く成ることを『祈る』集いの場をもった。自然にもっとも近い生き方を守り続けるオーストラリアの先住民族アボリジニの『祈り』を小名浜の地で音楽・舞踊・美術というかたちで共有。また、ハワイ・チベット・アイヌといった世界各国の先住民族の『祈り』のパフォーマンスも併せて披露し、いわきのじゃんがら念仏踊りと共に、世界の祈りをこのふくしまの地で一つの力とした。

⑥ 「亘理町の防潮林再生グリーンベルトプロジェクト」

総務省・緑の分権改革・被災地復興モデル調査事業 (BCCJ)

「熱気球フェスタ」「わたりグリーンベルト P シンポジウム」開催

防潮林の再生を通じて亘理町のまちづくりを考える「わたりグリーンベルトプロジェクト」。町民 50 名が集い、5 回のワークショップを行って、防潮林を復興するためのマスタープランを作りあげた。南北 4km、東西 1km のエリアに、次の津波から人々を守る強い防潮林を創り上げる。また、これらの森創造事業には、町外からも多くの企業、一般ボランティアを動員し、グリーンツーリズムとして亘理町の新たな観光資源を創出している。2015 年 2 月には NPO 法人化、亘理町の町民 2 名が代表理事となり、活動を継続。

⑦ 「福島県いわき市・市民による再生可能エネルギーを活用した地域づくり」
(2011 年 12 月～) (総務省・緑の分権改革・被災地復興モデル調査事業) いわき市内の 3 つの NPO 法人

i) いわきオーガニックコットンプロジェクト (地球環境基金) 吉田恵美子さん

ii) いわきコミュニティ電力プロジェクト 島村守彦さん

いわき市民による再生可能エネルギーを活用した地域づくり

iii) いわき復興スタディツアープロジェクト 里見喜生さん



東日本大震災、原発事故により大きな被害を受けた福島県いわきだからできること、しなければならないこと。いわきの明日、持続可能な未来に向けて、3つの NPO が中心となり「いわきおてんとSUNプロジェクト」を通じて復興まちづくりに取り組んでいる。地域住民、避難移住者、農家、事業者、地域づくり団体、NPO、首都圏企業、ボランティア、そして自治体など、様々な方々との輪をつなぎながら、①オーガニックコットン栽培および製品づくり、②いわきコミュニティ電力、(自然エネルギー)、③復興スタディツアーに取り組んでいる。

⑧ 「石巻市 子どもたちからの町づくり提言プロジェクト」

東日本大震災圏域創生 NPO センター 太田美智子さん (ACCJ)

被災地の女性リーダー、教育リーダーが共に被災地の子どもたちの ケアにあたる中で、子どもたちと一緒に自分たちの住む街の未来復興ビジョンを描き、行政に提案するための提言書とジオラマを制作。2013年10月18日には、市役所にて、子どもたちから石巻市長に手渡した。

⑨ 「石巻 ゆっくり邑こども王国プロジェクト」

東日本大震災圏域創生 NPO センター 太田美智子さん
(三井物産環境基金)

石巻高校の避難所で7か月間、ともに生活した人々がつくった家族会。その後、各家庭が仮設・みなし仮設住宅・身寄り宅・自宅に分散しましたが、避難所で生まれた絆を保ちたいとの声が高まり、これに宮城県登米市東和町の人々が協調して、登米市相川の里山に新しい場を作る計画「かじか村子ども王国プロジェクト」をスタート。里山保全＋震災避難所で生まれた絆の維持のプロジェクト。2014年9月には、「一般社団法人(非営利型)東北アイランド推進機構」を新たに立ち上げ、宮城県大崎市三本木の農家(1,700坪)を購入して、活動を継続中。



⑩ 東京新聞とJKSK 結結 P のコラボレーションによる連載 “東北復興日記”
～コミュニティーの未来は東北に～復興の今、女性たちは・・・

- i) 第3回車座・交流会(2012, 4, 14～15)で、被災現場を視察、現場で戦っておられる人々との会話、被災直後と全く変わらない復旧・復興の現状に対して「風化を防ぐためにメディアとの連携による継続的な情報発信が不可欠ではないか」という提案がだされた。東京新聞と意見交換の後、東京新聞とJKSK 結結 P が連携して連載を開始することにする。
- ii) 2012年7月25日「結結プロジェクト座談会(上)」
「復興引っ張る女性の力～政治家頼みの発想はやめなきゃ」「東北再生は日本の未来を作ること～「助けて」声をだいにして」
2012年8月1日「結結プロジェクト座談会(下)」
「人がつなぐ確かな希望～今までにない石巻が生まれる」「いわきに再生エネ発電所を～復興の今、伝え続ける」
- iii) 2012年8月10日(第1回)～東京新聞 毎週金曜日朝刊(2016年1月19日(170回)より火曜日朝刊)4面連載を開始、2016年5月24日(第183回)
- iv) 2016年4月12日～5年目の節目として「東北復興日記」を「東北まだまだ復興日記」として再出発(第179回)～
- v) 2013年1月～1年間「河北新報」で連載を掲載
- vi) 2014年10月～ジャパン・フォー・サステナビリティにより海外配信(毎月1回)

⑪ 「被災地と首都圏の女性による環境コミュニティビジネス・インキュベーション調査事業」(W-Bridge) (2012年7月～2013年6月)

車座・交流会(第4回、第5回)の実施、アンケート調査の実施、ワークショップ(車座・交流会)手法のマニュアル化、被災地の女性リーダーと首都圏等の女性エキスパートのネットワーク化(目標100人)、環境コミュニティビジネスのプロセスについて構築し、報告書等にて公表する。これらにより、復興を推進する地域主体の形成、被災地各地の地域資源を活用した環境コミュニティビジネスの推進を行い復興に貢献する。



⑫ いわき市地域活性 P～「MUSUBU～さくらの森 夜の森 P」(フラッシュバック
ジャパン)

東日本大震災の原発事故により警戒区域となっている福島県双葉郡 富岡町にある桜の名所「夜の森」。富岡町出身の母親や親戚たちに“桜を見せたい”というMUSUBU代表の宮本英実氏の思いからスタートした。人がいなくなった町でも、変わらず咲き誇る桜は希望にも見え、この状況を多くの人に見てもらいたいく「写真展」として企画し、2012年8月から福島県内各所の仮設住宅や地域イベントに出展し、多くの方々に見て頂く機会を提供。

⑬ 宮城県石巻市の小学校や地域のセンターに、クリスマスツリー25 本と東北
グランマのクリスマスオーナメント 50 セットのプレゼント

⑭ 「Share with FIAT クリスマスイベント」
(2012年11月18日、2013年12月7～8日)
(FIAT 主催、JKSK 結結 P 出展参加)

⑮ 「震災復興を支える人たちを結ぶフォーラム」
～スマトラ沖大震災と東北大震災～
(2013年8月6日)
(大和証券グループ、JKSK 共催)

⑯ JKSK ボランティア BUS 運行(オーガニックコットン栽培プロジェクト支援を
目的として)

*2012年5月の連休後、東京をはじめ全国から応援に来ていたボランティアの数が激減する現象に対し、「東日本大震災復興支援活動の炎は燃やし続けねばならない」という強い思いの中で、小さな小さな一投かもしれないけども、1人でも多くの人に呼びかけてオーガニックコットンの畑で汗をかこう活動推進のため JKSK ボランティア BUS を運行。福島へそして、社会へのメッセージを送り続けてきた。



*JKSK 車座・交流会がきっかけで誕生した「オーガニックコットン栽培P」の応援、

*震災と原発事故の風評被害に苦しむフクシマの農業に、オーガニックコットン栽培で、新しい福島の、日本の産業をめざすという新風を吹き込み元気を取り戻すお手伝い

*行程

新宿駅(集合 7:00)～畑作業(広野町)～昼食(地元産)～畑作業(広野町)
～いわき湯本温泉古滝屋入浴～新宿駅(解散 20:00)

(2013年)

- 第1回 2013年5月25日(土) ポット苗の定植
- 第2回 2013年6月22日(土) ポット苗の定植・捕植
- 第3回 2013年8月24日(土) 草取り
- 第4回 2013年9月28日(土) 草取り・収穫
- 第5回 2013年11月23日(土) 収穫祭

(2014年)

- 第1回 2014年6月1日(土) 種まき(直播き)
- 第2回 2014年7月12日(土) 草取り
- 第3回 2014年9月13日(土) 草取り
- 第4回 2014年11月8日(土) 収穫

(2015年)

- 第1回 2015年6月13日((土)ポット苗の定植
- 第2回 2015年9月12日(土) 草取り
- 第3回 2015年11月22日(日) 収穫祭



⑰ 「わたりグリーンプロジェクト”熱気球フェスティバル」

2012年は、各地で復興に取り組む仲間が集い、わたりグリーンベルトプロジェクトを事例に、市民主体の震災復興の具体的手法を考えるシンポジウムを開催。また、シンポジウムだけでなく、気球が互理の子供たちを乗せて空に舞い上がり、皆で互理と復興地すべての人たちの夢を描く熱気球イベントを実施。熱気球フェスは、2012年より恒例のイベントとなっている。

- 2012年12月22日
- 2013年10月19-20日

⑱ JKSK 結結 P ステークホルダー・フォーラム(成果報告会)

日時:2013年6月7日(金)15:00~18:00~20:00

場所:CTW(表参道)

内容:①主催者挨拶

- ②JKSK 結結 P 概要・経過説明
- ③各プロジェクトの発表(4プロジェクト)
- ④ 情報発信「東北復興日記」
- ⑤ 実行委員からのリレーメッセージ
- ⑥ 応援団からのメッセージ
- ⑦ ワークショップ
- ⑧ 写真撮影
- ⑨ 懇親会(於 Bistro Le Man)

2年に渡って活動してきた「結結プロジェクト」の報告会。寄付金等のご提供や支援くださっている企業・団体、個人の皆さまに報告を行うと共に、今後についてディスカッションする機会として開催。

⑲ 被災地におけるメンタルヘルス・プロジェクト

~2013年10月~2015年12月 被災地14か所で開催 参加者延べ530名~



ストレスケア説明・講習会 (JKSK 結結 P 実行委員会ほか)
(2013 年 10 月 24 日 (木) 17:00~19:30 於 CTW)

- ① 「つぼとんセラピー体験会」in 気仙沼
2013 年 11 月 6 日 (水)~9 日 (土)
(於 NPO 法人ネットワークオレンジ(気仙沼市))
- ② 「つぼとんセラピー講習会」 in いわき市
2014 年 4 月 20 日 (日)~22 日 (火)
- ③ 「つぼとんセラピー体験会」in いわき市
2014 年 4 月 26 日 (土)~27 日 (日)
- ④ 「つぼとんセラピー体験会・講習会」in 南三陸
2014 年 10 月 18 日 (土)~19 日 (日)
- ⑤ 「つぼとんセラピー講習会」in 登米市
2014 年 10 月 20 日 (月)
- ⑥ 「つぼとんセラピー講習会」in 釜石市
2014 年 11 月 8 日 (土)~9 日 (日) & 11 月 10 日 (月)
(於 NPO 法人カリタス釜石)

被災された方々のトラウマやストレスの緩和、また、支援者の心身の健康の維持、改善に役立てていただきたいと考え、欧米で元兵士の PTSD の解消や、ハイチ地震の犠牲者などに対して用いられている「つぼとんセラピー (EFT: Emotional Freedom Technique)」の講習会を開催。これまで講習会を開催した地域は、気仙沼、石巻、いわき、南三陸、釜石、仙台など、延べ530 人の9 割以上に効果が見られている。

2015 年以降は、セラピストで構成されるハートサークル主催で活動を継続。
2016 年 2 月より、一般社団法人ハートレジリエンス協会を設立し活動。

⑱ 東北の美しい未来創造塾

仙台市、せんだい男女共同参画財団、NPO 法人みやぎスマートアグリ、尚絅学院大学等と連携。大学生、20~40 代の女性や若者など約 20 名が参加し、復興



の地域づくり・未来づくりの企画を立案する「東北の美しい未来創造塾」を開催。
会場：仙台市男女共同参画推進センター エル・ソーラ仙台 大研修室

(第1期プログラム)

- 第1回 公開フォーラム“復興の地域づくり～今、そしてこれから
- 第2回 2013年11月27日(水)18:30～20:30
「東北の未来づくりプロジェクトの立ち上げ方」
- 第3回 2014年1月8日(水)18:30～20:30
「地域資源の発掘、ニーズの把握」
- 第4回 2014年1月11日(土)終日(大崎市)バスで日帰り
「フィールドワーク 蕪栗沼ふゆみずたんぼプロジェクト」
- 第5回 2014年1月22日(水)18:30～20:30
「プロジェクトの企画」1
- 第6回 2014年2月1日(土)終日(バスで日帰り)
「フィールドワーク いわきおてんとSUN」(いわき市)
- 第7回 2014年2月19日(水)18:30～20:30 「プロジェクトの企画 2」
- 第8回 2014年3月1日(土)午後 「成果報告会」

<第2期プログラム>

- 第1回 10/2(木) 18:30～20:30 オリエンテーション、プロジェクトデザイン1
- 第2回 10/23(木) 18:30～20:30 インクルーシブ・リーダーシップ 1、
プロジェクトデザイン2
- 第3回 11/15(土) フィールドワーク 宮城県丸森町
- 第4回 11/20(木) 18:30～20:30 プロジェクトデザイン3、グループワーク1
- 第5回 11/27(木) 18:30～20:30 プロジェクトデザイン4、グループワーク2
- 第6回 1/17(土) フィールドワーク 福島県南相馬市
- 第7回 1/22(木) 18:30～20:30 成果発表会
講座を通じて立案したプロジェクトの企画発表

21. 「JKSK美しい未来創造塾・南相馬メンタルヘルス対策講座」
(2014年6月～12月)

2013年12月に南相馬で開催した第6回車座・交流会での問題提起を受け、「南相馬メンタルヘルス対策講座」を実施。



- 6月21日(土) :解決志向を学び、思考を整理し目標を明確にする技術を学ぶ
(ストレスに関する基礎知識)
- 7月19日(土) :チーム内のストレスを緩和し、やりたいこと、できることを整理する
技法を学ぶ
- 8月23日(土) :共感を得る発信の技法を学ぶ
- 9月20日(土) :言語的説得技法(コミュニケーションストレスを緩和する)
- 12月20日(土):メンタルヘルス対策実践の振り返り。各種技法の復習。

22. 国連防災世界会議パブリックフォーラムにて成果報告会
(2015年3月15日 16:00~18:00)

会場: TKP ガーデンシティ仙台勾当台 3階 ホール3

大震災と向き合うために・未来の地域づくり人材育成ネットワークフォーラムにて
「JKSK 東北の美しい未来づくりをここから—被災地と首都圏の女性の交流による
復興推進「結結プロジェクト」報告と提案」

23. 国連防災会議関連企画 福島スタディツアー
(2015年3月18日)

国連防災会議に参加する外国人を対象に、バスにて福島(南相馬、いわき等)に
案内するスタディツアーをいわきおてんと SUN 企業組合の協力を得て実施。5か
国 38人が参加。

24. 「広野わいわいプロジェクト」(復興庁・新しい東北先導モデル事業)
(2015年1月~2016年3月)

2015年は広野町で綿の栽培、町内に完成する防災緑地での植樹、町に賑わい
を取り戻すパークフェスの開催、JKSK車座・交流会の開催等を通じ、広野町への
町民の帰還が促進されるよう、地元住民やいわき市民、首都圏の団体が連携し
「広野わいわいプロジェクト」を実施。JKSKは、第8回車座・交流会の開催、3回
のボランティアバスの運行、商品開発ワークショップへの参加、アンケート調査へ
の協力、防災緑地での植樹祭(3月6日)への参加などを行った。



9) ご支援いただいた方々

- ① JKSK-WE 基金活動支援フレンドリー企業(イオン(株)、東芝、FIAT Chrysler Automobils, (株)、(株)電通、(株)たちばな出版、(株)コスモピーアール、(株)パソナグループ)
- ② サイボウズ(株)、福澤機械(株)
- ③ ACCJ
- ④ W-BRIDGE
- ⑤ One-Coin/ Every Day 活動協力者
- ⑥ JKSK 会員、関係者個人
- ⑦ その他(総務省、復興庁)